

『フォト・ストーリー 沖縄の70年』から

まずは本書カバー裏から。「1938年に沖縄に生まれ、幼い頃に本土に移住した著者は、ベトナム従軍カメラマンとして、ベトナム戦争に関わる沖縄米軍基地取材した。それをきっかけに、自らのルーツとも向き合いながら沖縄について考え続け、撮り続けてきた著者が、70年の歴史を、戦争と基地を軸に描き出す。カラー写真多数。」



石川文洋さんの著書は『戦場カメラマン』をはじめ、前から愛読してきた。本書には数多くの写真が載っており、それを眺めるだけでも沖縄の過去から現在をビジュアルに知ることができる。

今日6月23日は「慰霊の日」である。本書を細かく紹介するより、本書に掲載されている2年前の「慰霊の日」に読まれた詩を取りあげたい。毎年、生徒・児童による「平和への誓い」が朗読されるが、その年は沖縄最西端、与那国島・久部良小学校1年生の安里有生くん、6歳の詩だった。

へいわってすてきだね

へいわってなにかな。 ぼくは、かんがえたよ。 おともだちとなかよし。
かぞくが げんき。 えがおで あそぶ。 ねこがわらう。
おなかが いっぱい。 やぎがのんびりあるいてる。
けんかしてもすぐなかなおり。 ちょうめいそうがたくさんはえ、
よなぐにうまが、 ヒヒーんとなく。 みなとは、 フェリーがとまっていて、
うみには、かめやかじきがおよいでる。 やさしいところがにじになる。
へいわっていいね。へいわってうれしいね。
みんなのころから、へいわがうまれるんだね。

せんそうは、おそろしい。 「ドドーン、ドカーン」
ぼくだんがおちてくるこわいおと。 おなかがすいて、くるしむこども。
かぞくがしんでしまってなくひとたち。

ああ、ぼくは、へいわなときにうまれてよかったよ。
このへいわが、ずっとつづいてほしい。 みんなのえがおが、ずっとつづいてほしい。
へいわなかぞく、 へいわながっこう、 へいわなよなぐにじま、
へいわなおきなわ、 へいわなせかい、 へいわってすてきだね。

これからも、ずっとへいわがつづくように ぼくも、ぼくのできることからがんばるよ。

(2015年6月23日)